

座談会

試行調査の問題を解く上で必要とされた「読解力」とは何だったのか？

今回の試行調査の問題に対して、いずれの教科の担当教師からも上がったのが「読解力」の重要性を指摘する声であった。そこで、試行調査の問題を解く上で必要とされた読解力とは、具体的にはどのような力だったのか、そして、そのような力を今後どのようにして生徒に育んでいけばよいのか、4教科の担当教師に語り合ってもらった。

参加者



高野和幸
高知県立高知西高校
たかの・かずゆき
教職歴32年。同校に赴任して2年目。副校長。理科。



寺島 求
東京都立西高校
てらしま・もとむ
教職歴37年。同校に赴任して10年目。数学科。



高木 優
神戸大学附属中等教育学校
たかぎ・すむる
教職歴24年。同校に赴任して9年目。地理歴史科。



河田良子
大阪教育大学附属高校天王寺校舎
かわた・りょうこ
教職歴9年。同校に赴任して5年目。国語科。

従来の問いにたどり着くための 読解力が必要に

松永 今回の「大学入学共通テスト」（以下、共通テスト）の試行調査の問題をご覧になった先生方からは、PISA2015や次期学習指導要領答申（*）などで説明されている「書かれたテキストを理解し、利用し、熟考」する力や、「見つけ出した情報を多面的・多角的に吟味し見定めていくことや、情報と自分の知識等を結びつけたりして考えをまとめていく」力、すなわち「読解力」の育成が不可欠だと実感したというお声を多く伺いました。実際、今回の試行調査の問題は、現行のセンター試験と比べると読解に時間を要する内容であり、与えられる情報が文章だけでなく、表や図など多岐にわたりました。また、素材や場面設定が日常生活や社会にかかわるものが多いなど、問題文の質の変化の点からも、前述のような読解力が必要とされたと考えられます。

寺島 数学では、今回の試行調査でも、日常的な事象を

* 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」



テーマとし、与えられる情報量が多い問題がありました。そのような問題では、どのような状況下で何が求められているのかを読み解いてから「数学」が始まります。そのため、読解力がないと数学の問いにたどり着けない恐れがあります。これまで数学では、問題の読み解き段階での誤解を避けるため、問題文は短い方がよいとされてきましたから、そういった点では、現行のセンター試験と今回の試行調査の数学は大きく異なります。

河田 国語では、問題を解くまでに接する情報が多く、複数のテキストの内容を整理しながら、必要な情報を素早く取捨選択したり、全体像をつかんだりする力が求められています。ただし、要求される学力は、現行のセンター試験の国語から一変したわけではないと思います。従来のように、精読して解釈する力を見る問題も出ており、8割弱は従来の問題だと捉えています。残りの2割強が、現場の先生方がご指摘されている読解力が求められる部分ではないでしょうか。

高野 理科も、前回の試行調査に続いて、日常生活で見られる現象を題材とし、データや資料から必要な情報を読み取って活用する問題が出されました。また、生徒が実験結果に基づいて考察を行う物理の問題、かぜ薬の合成がテーマの課題研究を題材にした化学の問題など、日頃の実験や探究活動の経験の有無が取り組みやすさを左右する問題も出ました。

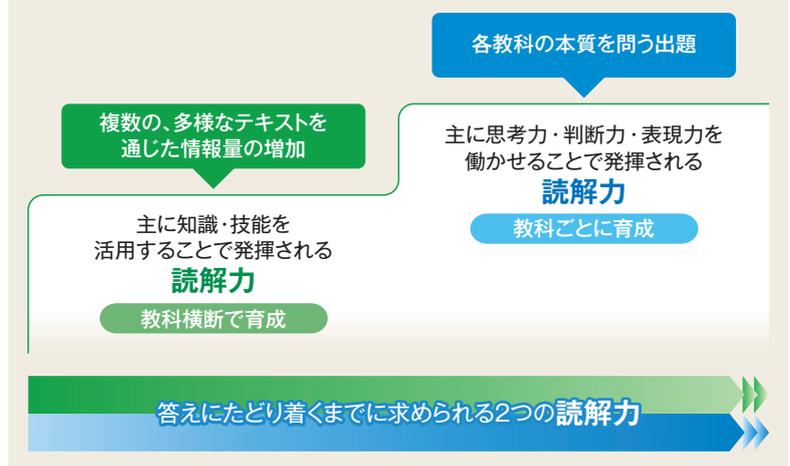
高木 前回の試行調査同様、日本史や世界史は現行のセンター試験と比べて史料が増えています。ただ、求められている力は従来と大きく変わりません。これまでも、地理歴史、公民では史料・資料が提示され、その内容を読解することが求められてきました。

河田 読解のスピードが求められたことは確かです。国語も、普段から活字に多く触れ、多様な文章に接した経験を持つ生徒は対応しやすかったはずですが、

寺島 情報を取捨選択し、従来の数学の問いにたどり着いた後は、現行のセンター試験でも求められている、定理・公式の運用力や計算力を発揮するために必要な、数学的な事象の本質を読み取る力が求められました。

高木 試行調査の問題を解く上で必要とされた読解力は、2種類あると思います。「主に知識・技能を活用することで発揮される読解力」と、「主に思考力・判断力を発揮する読解力」です(図)。前者はどの教科でも同様に求められ、教科横断で育むことができます。一方、後者は教科固有で、各教科の授業の中で育まれるものです。まず、読解力について共通認識を図ることが重要なのではないのでしょうか。

図 「大学入学共通テスト」の問題を解く上で必要だと考えられる「2つの読解力」





生徒の自由な思考、多様な意見を教師が価値づけしていく授業を 河田

大阪教育大学附属高校天王寺校舎 ◎自然科学や社会科学に関する基礎的な研究方法を習得しながら個々の好奇心を満たす「ブルーフ(課題研究)」、各自の生命観を醸成する「生命論」などの独自の学習空間を設置。文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール」指定校。
 ◎設立 1956(昭和31)年 ◎形態 全日制/普通科/共学 ◎生徒数 1学年約160人 ◎2018年度入試合格実績(現浪計) 国公立大は、東京大、京大、大阪教育大、大阪大、神戸大などに102人が合格。私立大は、慶應義塾大、東京理科大、早稲田大、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ235人が合格。 ◎URL <http://www.tennoji-h.oku.ed.jp/tennoji/index.html>

読解力とは何かを 校内で語り合う

松永 これからの授業のあり方について伺います。「主に知識・技能を活用することで発揮される読解力」は、どのようにして育めるのでしょうか。

河田 いろいろな話題、多様な知識に触れさせる時間が、それぞれの教科でより重要になると思います。国語であれば、教科書に載っている文章にとどまらず、多彩なジャンルの文章を読ませる機会を増やすことです。その一方で、精読する力も必要です。国語科の教師には特に、「今は大まかに読ませる」「次はじっくり読ませよう」などと、指導のモードを明確に判断することが求められます。

高野 教科書の内容から派生する関連知識を生徒に多く与えるためには、「保健体育」や「家庭」などの教科が横串となつて、各教科を結びつけることも必要です。

河田 情報の収集・整理・分析のステップの中で、様々な教科の関連知識に触れるという意味では、「総合的な探究の時間」が鍵になりそうですね。

高野 何が大切なのかを生徒自身が選択する場面を、授業に盛り込むことも重要です。これまでなら教師が「キーワードはこれ」などと説明していたところで、あえて生徒の気づきを待つ場面も、今後は増えると思います。

高木 「読解力の育成」を、教科を超えた共通の課題とするのとよいですね。そして、試行調査のような問題を、高1の段階から校内テストなどで出していけば、生徒も読解力の重要性を実感

し、学習の姿勢も変わっていくと思います。

寺島 「読解力の育成」が校内共通の課題になると、各教科ですべきことが見えてきます。「数学で得られた論理的な思考力は、国語の評論読解にも役立つ」と、各教科が読解力の育成に向けて「できること」を考えたいですね。

高木 「図を読み解く力」「文章を読み解く力」といった活動領域ごとの読解力を、どの教科が中心になって育むのかを話し合い、分担することも必要でしょう。

生徒の試行錯誤と 教科の本質の理解が必要

松永 「主に思考力・判断力・表現力を働かせることで発揮される読解力」、すなわち教科固有の読解力についてはいかがでしょうか。

寺島 答えが出たら終わりではなく、得られた数値の意味や価値を考察するといった、本質的な理解を求める指導が教科を問わず必要です。また、今回の試行調査の数学Ⅱ・Bでは、現行のセンター試験で見られる微分・積分の複雑な計算は求められませんでしたが、その傾向が実際の共通テストでも踏襲されれば、パターン演習的な学習では対応できませんから、授業改善が不可欠です。

河田 他教科と連携して、「このテーマはほかの教科でも扱ったよね」と教師が話すことができれば、生徒のメタ認知が促進され、本質的な理解へと近づくでしょう。

高野 科学の本質を理解するために重要なものは、基礎事項を身につけた上での、授業中の試行錯誤です。実験も、

「読解力の育成」を教科共通の課題とすることで、「カリマネ」を推進する 高木

神戸大学附属中等教育学校 ◎神戸大学発達科学部の旧附属明石中学校・住吉中学校を母体とし、中等教育学校として発足。2012年度、後期課程(高校)が開校。小集団学習や総合的な学習の時間「Kobeプロジェクト」など、言語活動を重視した特徴的な教育を展開する。
 ◎設立 2009(平成21)年 ◎形態 全日制/普通科/共学 ◎生徒数 1学年約155人 ◎2018年度入試合格実績(現浪計) 国公立大は、北海道大、東京大、京大、大阪大、神戸大などに69人が合格。私立大は、慶應義塾大、中央大、早稲田大、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ366人が合格。 ◎URL <http://www.edu.kobe-u.ac.jp/kuss-top/index.html>





思考を活性化させる問いづくりには、教師同士の研鑽が必要 寺島

東京都立西高校 ◎昭和12年に創立された府立第十中学校を母体とする。教育理念は「文武二道」「自主・自律」。国際社会で活躍できる人材の育成を目指す。東京都教育委員会による「進学指導重点校」の指定校。◎設立 1937(昭和12)年 ◎形態 全日制/普通科/共学 ◎生徒数 1学年約320人 ◎2018年度入試合格実績(現役のみ) 国公立大は、東京工業大、東京大、一橋大、京大、大阪大などに106人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、中央大、東京理科大、早稲田大などに延べ357人が合格。◎URL <http://www.nishi-h.metro.tokyo.jp/index.html>

できるだけ生徒に委ね、どのような結果が予測されて、実際に得られたのか、その結果の原因は何かを話し合わせることも重要になるでしょう。そうすることで、与えられた情報を既知の知識と統合して突き詰めていく、本質に迫る読解力が身につきます。

河田 今回の試行調査の国語の大問2では、「文章」に添えられた2つの表について、それぞれの意図を問う問題が出されました。文章にしる図表にしる、具体的な目的の達成のためにテキストを作成したところのある生徒は解きやすかったでしょう。具体的な課題に向き合って、仲間と話し合う中で自分の考えを形成していく、言わば「動的な思考力」が求められると思います。

高木 教員が答えを指し示すのではなく、グループ学習など、生徒と生徒の対話を通して答えを考える授業でこそ、動的な思考力を養うことができます。

河田 1つの問いに対してグループ別に、図や文章など自由な形式で思考の過程をまとめさせることが重要です。そして、多様な意見や考えを歓迎する授業であるならば、生徒の言葉にうなずくだけでなく、「ここに着目できたね」と価値づけしていきたいです。

高木 教員の適切な価値づけこそ、本質を読み解く力をも身につけるために不可欠な指導かもしれませんね。

寺島 本校では、年2回、教科を超えた授業見学の期間が設定されていますが、そこで重要視している観点は、「生徒の思考を活性化させる問いかけ」です。思考を活性化させる問いづくりには、教師相互の研鑽が必要です。さらに、私は「生徒の間違いを生

かした授業展開」も重視しています。

高木 授業の構成も変わります。地理歴史科ならば、地球的課題を主題に、その問題の解決方法を考えることで歴史的・地理的な見方・考え方を働かせる授業が求められます。歴史や地理の知識を覚えさせるだけの授業では、これからの入試には対応できません。地球的な課題が歴史や地理のどの事象と関係するのかを読み解くことが、地理歴史科固有の読解力です。

“カリマネ”の推進で 新入試対応の授業づくりを

高野 授業での試行錯誤と教科の本質的な理解のためには、そうした時間をどのように確保するかが課題になります。化学でも、例えば試薬の色など、覚えてしまえばよいところは、プリント学習で済ませて授業の中では説明しないなど、メリハリが必要です。

高木 年間を見通した単元構成などのカリキュラム・マネジメントの重要性が高まると思います。

河田 時間をかけて生徒が深く対話するような授業を実現しながら、教科書、さらには教科をも超えた知的な話題も提供し、生徒が知識と思考の広がりを楽しむようなメリハリを大切にしたいです。

寺島 共通テストへの準備は確かに必要ですが、それは形式の変化に対応するためのものです。これまでも求められた2つの読解力の育成を、すべての教師が意識しながら、本質を押さえた教科指導を続けていくことで、共通テストにも対応することができるはず。



生徒は授業中の試行錯誤によって本質に迫る読解力を獲得する 高野

高知県立高知西高校 ◎1968年、高知県の高校としては初となる英語科を設置。国際交流の先進校として積極的に活動。2023年度に高知南中学校・高校と統合完了し、国際バカロレアコースを含むグローバル教育を展開していく。文部科学省「スーパーグローバルハイスクール」指定校。◎設立 1957年(昭和32年) ◎形態 全日制/普通科・英語科/共学 ◎生徒数 1学年約280人 ◎2018年度入試合格実績(現役のみ) 国公立大は、岡山大、広島大、香川大、愛媛大、高知大などに92人が合格。私立大は、慶應義塾大、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ111人が合格。◎URL <http://www.kochinet.ed.jp/nishi-h/>